会議録

会議の名称	第２回新城市多文化共生推進プラン（仮称）策定検討会議
開催日時	令和５年１０月３日（火） 午前９時３０分から午前１１時まで
開催場所	新城市役所本庁舎４階　４－２、４－３会議室
会議の次第	１　あいさつ ２　議題 ⑴　新城市多文化共生推進プラン（案）について ３　その他 ⑴　今後の会議日程等について
会議録の作成方法	要点筆記
出席委員	長尾晴香委員長、本多尚子委員長代理、小川順子委員、宮下利夫委員、戸田由美子委員、河合惠元委員、マスコアドリアナ委員、仲西ハルミ委員
欠席委員	白井雅人委員

１　あいさつ

委員長より簡単なあいさつがされた。

２　議題

⑴　新城市多文化共生推進プラン（案）について

前回の会議で出た意見や庁内で出た意見をもとに作成したプラン（案）の概要及び主な変更・修正・追加点等について事務局から説明がされた。

《質疑応答・意見交換》

委員長	この冊子は市民にも見ていただき、なぜプランがあるのかという理解も含め、市としてどのような取り組みがあって、どのように実行されていくかということを示すものになる。 委員の皆さんに目をとおしていただいて、ここはこうした方が分かりやすいのではないかなどの意見や、質問も含めて何かあればいただきたい。
委　員	１５ページのライフサイクル図にある、「ポルトガル語心理相談」はすでに行われているものか、これから実施していくものか。
事務局	このプランに載っている施策は、既に実施しているものも含まれている。心理相談は既に実施しているもの。
委　員	心理相談というのは、外国人が日本で暮らしていくうえで一番重要だと個人的に思っている。外国人が日本文化を取り入れてくださいと言われると、精神的にも体力的にもサイクルを変えていかなければいけない。相談できる場所があるということはもっと大々的に伝えられるとよい。共働きが多い外国人にとっては、新城市で何が起きているのか、何ができるのか、何をしなければならないのかなどは正確には分からない。そういったときに、困っていることがあればいつでも言っていいよという場所があり、しかもそれを自分の言語で相談できる相手がいるということはとても安心材料になる。 また、日本語教室はどのように声かけしているのか。新城市に転入してきた日本語があまり分からない外国人にだけ伝えているのか、学校等でも周知しているのか。自分の母を含め、知らない人がたくさんいると思う。母は日本に３０年近くいるが、日本語は７０％程度しか理解できない。豊橋市に住んでいたときには通訳がいたため少し甘えた部分があった。でも、日本語が分かることはとても大事なことなので、勉強していってほしいと娘ながら思っている。なので、日本語教室があるということをもっと色々なところで声かけできるとよい。 それと、外国人は児童館を使用しにくいのではないか。ピーカブー（多文化おやこふれあいひろば）はあるが、自分がいつも児童館に行くときには、外国人を見たことがない。保健センターで乳児健診等がある際など、

	外国人に対して広く発信できるとよいのではないか。 　それから、市民病院に通訳がいないという話もあったが、通訳がいないから諦めるのではなく、通訳を育てるのもありか。外国人が増えているというのは、悪い面も良い面もあるが、自分のように日本でずっと過ごしてきて、日本で家族を作って子どもを育てていく人も出てくる。今後を見据えての考え方として、通訳を育てるという意識はあった方がよいと思う。中学校、高校、大学等で、通訳の道もあるということが分かれば、そういう仕事もあるのか、自分も人を助けられるのかと安心することができる。そういうことを知らないで育って未来のない人もたくさんいるので、外国人からすればそういう道があることが分かるし、新城市としても通訳が増えて助かる。その結果住民も増えていくというよい循環になると思う。 　また、きずなネットがなくなってしまうと、ママさんたちはとても大変だと思う。最近あったことで、運動参観が２５日にある予定で、きずなネットをとおしてその連絡があり、外国人を含め皆メッセージを開封して承知済みになっていたはずであったが、外国人の友人と運動参観の話をしたら３１日と勘違いしていた。実際には２５日が当日で、雨天の場合は３１日に行うという内容であった。アプリに自動翻訳機能があっても勘違いしてしまうのに、それさえもなくなるのは困ってしまうと思う。たまたま自分が正しい情報を伝えられたからよかったが、そうでなければ勘違いで運動参観に行けなかったという悲しいことになる。そういうことも徐々に改善していけるとよい。
委員長	主に生活環境の整備の具体的なこととして、心理相談のことや子ども期・乳幼児期の情報提供といったところでもう少し手厚いサポートが必要ではないかということ。それと、将来的な体制づくりとして、通訳というようなところも重点的にできるような視点があるとよいのではないかという指摘があった。 　もう一つは、日本語教育というところで、どういう周知をしているのかという指摘があったが、事務局から回答できることはあるか。
事務局	外国人が転入してきた際に、市では相談窓口や日本語教室を実施しているというチラシを渡している。ホームページと Facebook にも掲載しているため、見る人は見るという状況。来年度以降、日本語がほとんど分からない方向けの日本語教室も実施することを検討しているため、周知方法を強化していかなければいけないと感じている。
委員長	将来的なところも見据えた指摘だったと思う。その他意見等はあるか。
委　員	プランの表紙と裏表紙について、現状とてもシンプルなデザインだが、最終的には、多文化共生の温かいイメージなど、手に取りやすくなるよう

	に、他の自治体ではイラストを入れているケースもあるため、そういったものを表にいれることは可能かということ。また、せっかく市民に見ていただくのであれば、多文化共生の意識を育んでいただきたいので、例えば裏表紙に、「多文化共生のために私ができること」などを書き込める欄を設け、プランを見た人が自分にも何かできることはないかと考えるきっかけになるとよいと思った。 　もう一つ、目次のところの参考資料の部分については、２５ページ以降はページ番号が入っていない。参考資料の中には用語解説もあり、本編の１ページ目から早速「注」が入って用語解説のページで説明しているため、目次の各参考資料にもページ番号を入れてはどうか。 　それと、例えば１ページ目のタイトルと本文の間に、「※注は巻末用語解説を参照」など書いておくと、ここに関する情報が巻末にあるということがページ内で分かりやすいため、それはあった方がよいと感じた。 　また、６ページの円グラフのところで２０１４年と２０２３年のデータが比較できるようになっている。割合変化を分かりやすくするのであれば、棒グラフの方がよいと思う。
委員長	見やすさというところで何点か指摘があった。事務局から回答を。
事務局	表紙について、裏面の「多文化共生のために私ができること」はぜひ入れさせていただきたい。表面についても、なるべく手に取りやすいようにイラストを入れるなど検討する。 　用語解説については、例えば、目次の次のページにある「本プランにおける標記について」のところに、「注」マークと用語解説のことについて説明するというのはどうか。
委　員	それでもよいと思う。
委　員	外国人の生活リズムをアンケート等で知っておくと、彼らの生活に対する理解が深まるのではないか。勤務時間帯、休日がいつかなどが分かるだけでも、例えば夜勤が多いからごみ出しの時間帯が朝だと厳しい方もいる場合に、こういう出し方の工夫があるといったことがアドバイスしやすくなるのではないかと思う。 　また、２２ページにある「分かり合う　意識啓発と社会参画支援」のところで、実施施策⑵の交流の箇所をみると、現状としては、年間とおして何月何日にイベントをやりますという形でイベントを実施しているが、そうすると、どうしても１年のうちの決まった日にやる非日常的なイベントが多くなってしまうというところがある。そのため、日常的に交流を生み出せるような交流の拠点づくりというのも必要ではないかと感じている。外国人中心の場所、外国人の拠点という形にしてしまうと、どうしても日

	本人が入っていくのに躊躇してしまったり、反対に日本人しかいない場所に外国人の方が入っていくのは勇気がいるので、日本人も外国人も自然とその場所にいることができるような拠点があると、お互いの理解もより深まっていくのではないかと思う。
委員長	１点目については、生活リズムであるとかのお互いの背景といったところを理解していくことが必要だという指摘であったと思う。こちらについては、今の案の中に含めるのか、何か別の機会として相互理解というような項目を増やすのかどうかという提案にもなるかと思う。 もう一つが、現在行われている非日常的な交流イベント等とは別に、日常的な交流の拠点であるとか、そういった取り組みについてどのようにしていくのかという質問であった。 事務局で現状考えていることはあるか。
事務局	１点目の相互理解の方では、昨年度に実施した外国人市民アンケートで日本語教室に参加しやすい時間帯等については聞くことができた。今後もう少し細かいところを聞いていくうえで、２０ページの№．３１に「外国人市民への満足度調査」というものがある。こちらは、毎年度外国人市民３００人に対して新城市での生活満足度を調査するものであるが、調査の中でそういった項目を入れるということもできそうだと感じた。 ２点目の拠点については、色々な関係課や関係機関が出てくると思うので、そちらとも検討しながらではあるが、入れるとしたら意識啓発と社会参画支援の中に入ってくるのかと思う。
委　員	相互理解の方で、これを指摘した理由として、外国人は基本的にお金を稼ぎに来ている方が多いため、どういう職業についてどのようなことをしているのかをアンケート等で知ることができれば、各国籍の人が何のために来ているのか、なぜ増えているのかといったことが分かりやすくなり、先のことが見やすくなると思う。何かに組み込むというよりは、アンケート調査のような形でもできるとよい。
委員長	おそらくアンケート調査は毎年行うというよりは、プランの改定等のタイミングで行うことになると思うが､そういったときの一つの視点として、職業や勤務時間といったような、外国人住民へのサービスを提供するにあたっての基礎的な情報というのが今後必要になっていくというような提案かと思う。
委　員	国際交流協会の方から拠点という話があった。こういう書き物や会議体は当然必要であるが、実際に触れ合うこと、食べたりスポーツをしたりするための場所づくりはとても大事だと思う。なので、これは早急に立ち上げるようなスピード感がほしいと思った。

	もう１点、８ページの在留資格の中に「技能実習１号」が「イ」と「ロ」に分かれているが、違いが分かれば教えていただきたい。
事務局	監理団体をとおして受けいれているのが「ロ」、企業が直接受け入れているのが「イ」の技能実習生だったかと思う。
委員長	在留資格の質問と、拠点作りというところで、日本人住民と外国人住民がお互いを理解していくために直接交流できるようなことを早急に行っていく必要があるのではないかという指摘であった。来年度以降は、プランができて、実際にこの政策を実行していくというフェーズに入っていく。そのときに、行政主体というだけでなく、今回委員として様々な方に関わっていただいているので、民間であったり市民との協働といったような動きも出てくると、理解がある皆さんとともに、その周りの人たちにも浸透していくという形もあるのではないかと聞きながら感じた。
委　員	地元との交流ということでは自分が一番身近になる。少し前に神社のお祭りがあり、コロナ明けの４年ぶりのお祭りだったため大勢の参加があった。中には外国人も参加しているようだった。 区としては、区や組に加入している人には色々な情報発信の手段があるが、加入していない人への情報発信が一番の課題と感じている。今回は、例えばブラジル人のグループのようなものがあって、誰かがそこに情報を流してもらえたことで参加につながったと思う。なので、そういう外国人のグループのようなものがあれば、そういったところを利用しながら情報発信していくのがよいと感じた。 現在組に加入している外国人は７世帯ぐらいいるが、それ以外のおそらくアパートに住んでいる人などについては区では全く分からない。そのような人への情報伝達ルートを考えていかないといけないと思っている。 それから、ごみの話がアンケート等にも出ているが、ごみ分別のアプリで「さんあ～る」というのがある。実際に使ってみると、言語の選択がどこでできるのか分からなかった。また、集積所の案内看板も日本語しか書いていないため、多言語で書くという話が千郷地域で出ていたが、なかなか実行されていない。自分も千郷地域の会議のメンバーに入っているため、聞いておかないといけないという風に思った。 また、バスの停留所についても、千郷の西地区Ｓバスの案内看板を外国人にも分かりやすくするという話を千郷地域協議会でして、予算を取った。このプランに載っている公共交通系施策の担当課と同じかもしれないが、意見を調整して、やるのであれば一遍にやった方がよいと思った。
委員長	交流という点から、地域のお祭り等については情報提供していく必要があるということ。実際には、情報が広がって外国人がお祭りに参加してい

	る例もあるので、情報が広がっている面もあれば、届いていない方もいる。そういう意味では、キーパーソンの把握というのが施策の中にも入っているが、こういった取り組みをとおして外国人コミュニティとどれだけつながれるよう展開していけるかが気になるところかと思う。 　あとは、ごみの分別であったり公共交通機関の案内というところで、プランにも関係課・関係機関が載っているため、日本人住民へのサービスと外国人住民へのサービスというところで連携を取っていくことが大切だという話であったかと思う。
委　員	一番の問題は、外国人が日本語を全然話すことができずにコミュニケーションを取れないこと。ただ、この９月から新しい日本語教室が始まった。自分と付き合いが長いブラジル人もこの教室に参加しているが、これまで一度も日本語を話しているところを聞いたことがないのに、教室では日本語を話していて驚いた。この教室の形式として、日本語を教えるだけではなく、日本文化を学びながら会話をして触れ合うことができるので、参加者もとても喜んでいる。 　外国人コミュニティに関しては、お互いに助け合えるためとてもよい。自分のコミュニティでも、ブラジルから来たばかりで子どものランドセルが必要になった家族がいたときに、もう使わなくなったランドセルを譲り合ったりしている。コミュニティのための場所はないが、しっかりとネットワークができている。
委員長	今話に出た、９月から始まっている日本語教室というのが、愛知県のモデル事業として、教室型ではなく対話交流型で行っていて、日本人がサポーターという形で入り、外国人と会話をしながら学んでいくというスタイルをとっている。本当によい雰囲気で、１１月にも教室のメンバーで持ち寄りパーティーをしましょうといった話も出ている。 　教室という形は取っているが、そういうコミュニティになっていくという可能性もある。コミュニティを作るための場所を作って、そこで何かをしましょうというのも一つの形としてあるし、日本語教室のような形で一緒に学びながら、そこがコミュニティになっていくということもあると思う。そういう意味では、日本語教室を行っているまちなみ情報センターが拠点になって、コミュニティができていくということも今後できるかと思うので、これをよいスタートとしながら来年も続けられるようになっていくとよいと思う。
委　員	大人向けの日本語教室の話があったが、学校にある日本語初期指導教室きぼうは、転入すると１階の窓口で転入手続きをする。そこで、小中学生の年齢にあたる子どもがいれば、必ず４階の学校教育課で学校の転入学の

	手続きをするという流れになっている。その際に、日本語でのやりとりが難しい場合は、アドリアナさんが付き添って通訳をしてくれている。手続きのときに、日本語初期指導教室きぼうのチラシがポルトガル語翻訳されているので、それを見せながら入室希望の意向を確認している。つい昨日も転入があったが、その子は前の学校でも日本人の子どもたちと一緒に授業を受けていたので必要ないとのことで入室しなかったが、今年は千郷学区に連続して色々な国籍の方が入っているため、教室のチラシをポルトガル語だけでなく多言語で準備しておかなければならないと考えている。
委員長	子ども向けの初期日本語について、転入時にしっかり案内がされているということで、目標指標の方にも書いてあったかと思うが、入室希望者が１００％入室できるという状況を継続していくということも大切だと思うし、今後の傾向として多国籍化・多言語化していく中での対応についても今後検討されていくような流れになるとよいと思う。
委　員	国際交流協会が日本人と外国人のスポーツ交流のイベントを行っていたりするが、そういうことをもっと発信して、工場や会社等で働いている外国人に伝わるように連携できるとよい。 外国人は本当にパーティーやイベントが大好き。個人でやるとうるさいというイメージになってしまいがちなので、家でやるよりもそういう場所が提供されるととても助かる。自分が小学校のときにアパートに住んでいたが、そのアパートにはブラジル人しか住んでいなかった。自分の父は、毎週土曜日住人を呼び出して､駐車場の車を全部動かしてスペースを作り、子どもたちにネットを持たせて大人たちが思いっきりバレーボールをやっていた。それを見た自分もとても楽しくて幸せな気持ちになった。楽しんでいる親を見ることはストレス発散にもなるし、子どもにもすごい影響がある。 そういう風に、場所を提供できる人とその場所を使って触れ合いたい人がいれば、そこにコミュニティができてそれ自体が安心材料になる人もいる。そういうところで、ちょっとした休憩中にしゃべることで、こういう悩みを抱えているんだということを知りながら交流することができる。 先日外国人とお祭りに行った際にも、お祭り好きな外国人の楽しみ方を見て日本人も感化されていた。そういう風に感化し合って、よいことはみんなで共有し合えることがとても大事。 また、ごみのアプリとか市役所のホームページを見ていると、色々と難しい言葉が多かったりで分かりづらい。ポルトガル語への変換機能をもう少し分かりやすくできるとよい。外国人向けの取り組みをやっているということを１枚の小さな紙等にＱＲコードを載せてまとめてもよい。ホーム

	ページで言うと、子育て情報誌さくらのホームページはとても華やかで見やすい。文字がいっぱいだと特に若い人は読まないので、直感的に操作して読んでいけるようなページの方が分かりやすいと思う。
委員長	まず交流ということに関しては、外国人が参加しやすい場を作るのはそうだが、話を聞きながら、外国人がお客さんというだけでなく、一緒に企画するというような力もあるように思うので、そういう企画等を一つ作ってみるようなことがあってもよいかと感じた。 アプリの使い方については、恐らく外国人に関係なく使い方が分かりづらいということはあると思う。かといってアプリを開発するというわけにもいかないため、日本語教室やお祭り等のイベントの際に、一緒に使ってみて理解するようなことができると、１回使ってみればハードルが下がるということもあるため、そういったことも含めて今後機会を作っていったり、情報提供の方法として、冊子では読む気がしないので、ＱＲコードで簡単に飛べるというようなことの方が、提供する側もアップデートがしやすいと思う。手元にたまたま蒲郡市のチラシがあるが、こちらに市民向けのサービスの概要とＱＲコードを載せて配っている。そういう紙１枚があると、企業や学校にも配れるし、色々な展開ができていくということで、かなり具体的な取り組み内容のヒントをいただけたのではないかと思う。
委　員	新城市には様々な国籍の外国人がいる。自分のところで働いているのはフィリピン人だが、そういった人たちは特定技能や技能実習生として会社がまとめて管理していることが多い。そういう人たちには会社から情報提供やアドバイスを直接することができるため、それよりも定住者・永住者の多い順番に通訳等の言語を準備する必要があるかと思う。
委員長	今後の体制整備の一つの考え方として、永住者・定住者の国籍別の状況を見ながら、まずどこを優先的に整えていくのかを考えていくことと、技能実習や特定技能の外国人に対しても企業の協力を得ながら情報提供していくこともできるのではないかという指摘であった。
委　員	自分たちみたいに元々日本に住んでいる人が、後から来た外国人に伝えたり手を引っ張ったりすることがとても大事。自分の両親は３０年以上日本にいるが、今は時間があるので、休みの日には落ち着いてゆったりと過ごしているが、そういう時間を近くの公民館等に人を集めて交流するのもありかと思う。そういうところで助け合える場所を作ることができる。そのようなつながりを作ることで、通訳等も探しやすくなる。 そういうきっかけを作るためにも、長く住んでいる人にどんどんアプローチしていけばよい。自分もそうしてここにいる。一番最初は自分なんてと思い断り続けたが、今自分がこういうところにいることで、周りにもた

	くさん声をかけているので、こういうきっかけはとても大事。
委員長	先ほども出たように、外国人が児童館を使ってよいのか、本当は使ってよいと思うが、少しハードルを感じて使えないというところもあると思うので、公民館等で地域の色々な人が集まれるような企画というのが一つあれば、もしかしたらその中からコミュニティが生まれたり、キーパーソンができたりという風につながっていくかと思う。ぜひそのときには皆さんの協力をいただきながらできるとよりよくなるのではないかと思う。 皆さんから活発な意見をいただいた。今回、プランことやその先を見据えた意見もたくさん出していただいたと思う。

３　その他

⑴　今後の会議日程について

次回会議までに実施予定であるパブリックコメント等のスケジュール概要について説明した。

《次回会議日程》

日時：令和６年２月２２日（木）午前９時３０分から１１時３０分まで

場所：市役所本庁舎３階　災害対策本部室３

閉会